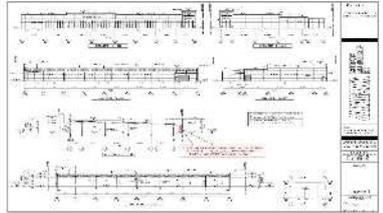


CASBEE[®] あいち

評価結果

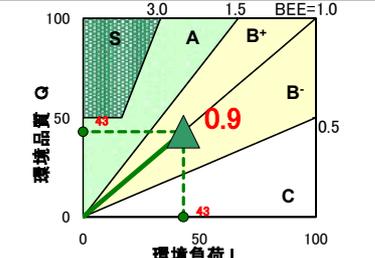
■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要				1-2 外観	
建物名称	(仮称)フォレストモール東海太田川 A棟	階数	地上1階		
建設地	多摩川東岸地区計画第2地区(第 2地区)第1種中高層住居専用地域(内線道路) - 東海太田川	構造	S造		
用途地域	市街化区域、準防火地域	平均居住人員	720 人		
気候区分	6地域	年間使用時間	4,380 時間/年		
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工時期	2026年3月 予定	評価の実施日	2025年5月22日		
敷地面積	4,688 m ²	作成者	大矢 政次		
建築面積	3,344 m ²	確認日	2025年5月28日		
延床面積	3,238 m ²	確認者	大矢 政次		

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.9 ★★★★★

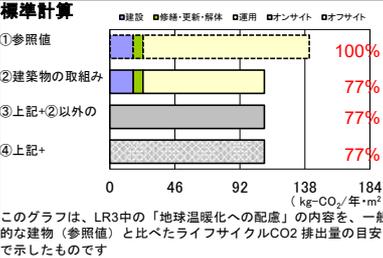
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★



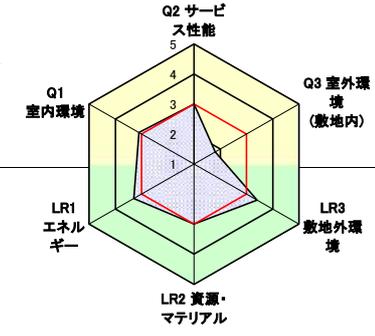
2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★



2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

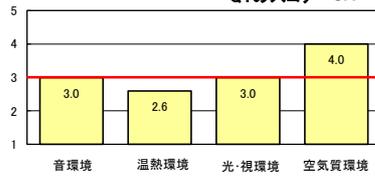


2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.7

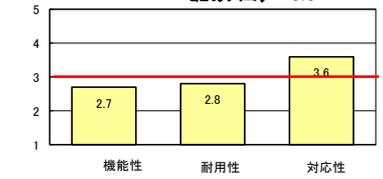
Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.1



Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.0



Q3 室外環境(敷地内)

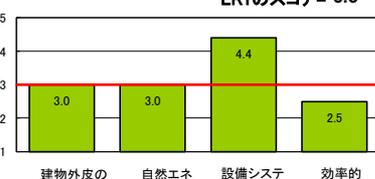
Q3のスコア= 1.8



LR のスコア = 3.2

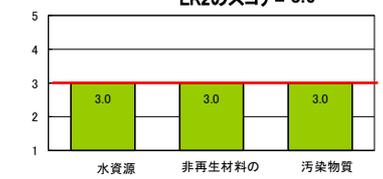
LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.3



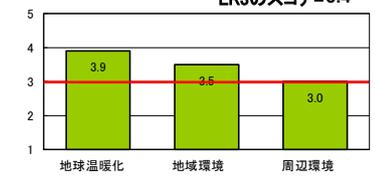
LR2 資源・マテリアル

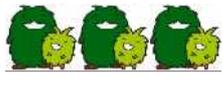
LR2のスコア= 3.0



LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.4



3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>3.9</p> 	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>2.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>0.0 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.0</p> 	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
 (仮称)フォレストモール東海太田川 A棟

■使用評価マニュアル:
 ■評価ソフト:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
 CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								2.7
Q1 室内環境								3.1
1 音環境						0.40	-	
1.1 室内騒音レベル						0.15	-	3.0
1.1 室内騒音レベル					3.0	3.0	0.40	-
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能					3.0	3.0	1.00	-
2 界壁遮音性能					-	-	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-	-	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-	-	-	-
1.3 吸音								
1.3 吸音					-	3.0	0.20	-
2 温熱環境								2.6
2.1 室温制御								
1 室温					0.5	3.1	0.50	-
2 外皮性能				断熱性能の高い外皮。	3.0	3.0	0.50	-
3 ゾーン別制御性					3.0	4.0	0.17	-
2.2 湿度制御					3.0	3.0	0.33	-
2.3 空調方式					3.0	1.0	0.20	-
2.3 空調方式					3.0	3.0	0.30	-
3 光・視環境								3.0
3.1 昼光利用								
1 昼光率					0.5	3.0	0.50	-
2 方位別開口					3.0	-	-	-
3 昼光利用設備					3.0	3.0	1.00	-
3.2 グレア対策								
1 グレア制御					5.0	-	-	-
3.3 照度								
3.3 照度					3.0	-	-	-
3.4 照明制御								
3.4 照明制御					3.0	3.0	0.50	3.0
4 空気質環境								4.0
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質				F☆☆☆☆建材を全面的に採用。	0.5	4.0	0.50	-
1 化学汚染物質					3.0	4.0	1.00	-
4.2 換気								
1 換気量					0.3	4.0	0.30	-
2 自然換気性能					3.0	3.0	0.50	-
3 取り入れ外気への配慮				空気取り入れ口が、排気口と異なる方位で6m以上離れて設置されている。	3.0	5.0	0.50	-
4.3 運用管理								
1 CO ₂ の監視					0.2	4.0	0.20	-
2 喫煙の制御				施設全体が禁煙。	3.0	3.0	0.50	-
2 喫煙の制御					3.0	5.0	0.50	-
Q2 サービス性能								3.0
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ								
1 広さ・収納性					0.4	2.7	0.40	-
2 高度情報通信設備対応					0.4	3.0	0.40	-
3 バリアフリー計画				独自	3.0	-	-	-
3 バリアフリー計画					3.0	3.0	1.00	-
1.2 心理性・快適性								
1 広さ感・景観 (天井高)				天井高さ:3.98m。	0.3	2.6	0.30	-
2 リフレッシュスペース					3.0	5.0	0.33	-
3 内装計画					3.0	2.0	0.33	-
3 内装計画					3.0	1.0	0.33	-
1.3 維持管理								
1 維持管理に配慮した設計					0.3	2.5	0.30	-
2 維持管理用機能の確保					3.0	3.0	0.50	-
2 維持管理用機能の確保					-	2.0	0.50	-
2 耐用性・信頼性								2.8
2.1 耐震・免震・制震・制振								
1 耐震性(建物のこわれにくさ)					0.3	2.8	0.31	-
2 免震・制震・制振性能					0.4	3.0	0.48	-
2 免震・制震・制振性能					3.0	3.0	0.80	-
2 免震・制震・制振性能					3.0	3.0	0.20	-
2.2 部品・部材の耐用年数								
1 躯体材料の耐用年数				②	0.3	2.5	0.33	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔					-	3.0	0.23	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					-	2.0	0.23	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔					-	3.0	0.09	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔					-	3.0	0.08	-
6 主要設備機器の更新必要間隔					-	3.0	0.15	-
6 主要設備機器の更新必要間隔					-	2.0	0.23	-
2.4 信頼性								
1 空調・換気設備				②	0.1	2.7	0.19	-
2 給排水・衛生設備					3.0	3.0	0.25	-
3 電気設備					3.0	-	-	-
4 機械・配管支持方法					3.0	3.0	0.25	-
5 通信・情報設備					3.0	3.0	0.25	-
5 通信・情報設備					3.0	2.0	0.25	-

3 対応性・更新性					0.2	3.6	0.29	-	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり					0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり				階高: :5.00m。		5.0	0.60	-	-	-	
2 空間の形状・自由さ				壁長さ比率 0.074。	3.0	5.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり					3.0	3.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性					0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1 空調配管の更新性			②			3.0	0.23	-	-	-	
2 給排水管の更新性					3.0	-	-	-	-	-	
3 電気配線の更新性					3.0	3.0	0.15	-	-	-	
4 通信配線の更新性					3.0	-	-	-	-	-	
5 設備機器の更新性					3.0	3.0	0.31	-	-	-	
6 バックアップスペースの確保					3.0	3.0	0.31	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)						-	0.30	-	-	-	1.8
1 生物環境の保全と創出			独自③			2.0	0.30	-	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④			2.0	0.40	-	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮					0.3	1.5	0.30	-	-	-	1.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④			1.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上						2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性						-	-	-	-	-	3.2
LR1 エネルギー						-	0.40	-	-	-	3.3
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPI=0.97	3.0	3.0	0.30	-	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用					3.0	3.0	0.20	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化				BEI=0.73	3.0	4.4	0.30	-	-	-	4.4
4 効率的運用					0.2	2.5	0.20	-	-	-	2.5
集合住宅以外の評価					1.0	2.5	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング					3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制					3.0	2.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価					-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング					-	-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制					-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル						-	0.30	-	-	-	3.0
1 水資源保護					0.1	3.0	0.15	-	-	-	3.0
1.1 節水					3.0	-	-	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					1.0	3.0	1.00	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	3.0	0.63	-	-	-	3.0
2.1 材料使用量の削減						3.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用						3.0	0.24	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			②	-		3.0	0.20	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			独自	-		3.0	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	2.0	0.05	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自	LGS工法により躯体と仕上材が容易に分別可能。	3.0	5.0	0.24	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					0.6	3.0	0.68	-	-	-	
1 消火剤						-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)						3.0	0.50	-	-	-	
3 冷媒					3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境						-	0.30	-	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率77%		3.9	0.33	-	-	-	3.9
2 地域環境への配慮					0.3	3.5	0.33	-	-	-	3.5
2.1 大気汚染防止				燃焼機器なし。		5.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善						3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.2	3.0	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減			独自			3.0	0.25	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制						3.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制			独自	従業員の駐輪場を確保。また、荷捌き用車両の駐車施設も確保。		4.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制						2.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮					0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音			独自			3.0	1.00	-	-	-	
2 振動			独自			-	-	-	-	-	
3 悪臭						-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制					0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制						3.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制						1.0	-	-	-	-	
3 日照阻害の抑制						3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制					0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策						3.0	0.70	-	-	-	
2 透光の建物外壁による反射光(グレア)への対策						3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE:建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)フォレストモール東海太田川 A棟

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.9
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.9	0.10	
② 資源の有効活用				3.0
Q2-2	耐震性・信頼性	2.8	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:0%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化
重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和
重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用
重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)フォレストモール東海太田川 A棟

計画上の配慮事項	
総合	建物外観の基調色をやわらかい色調(アースカラー系)とし、又、建物高さを低く抑え周辺環境に調和するよう検討した。
Q1 室内環境	外皮性能を上げるなど温熱環境に配慮。また、全面的にF☆☆☆☆の材料を採用して空気質環境にも十分配慮した。
Q2 サービス性能	階高にゆとりを持たせた。 また壁長さ比率を小さくすることにより、空間にもゆとりを持たせた。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地や建物の植栽条件に応じた適切な緑地づくりを行っている。
LR1 エネルギー	LED照明を採用するなど、設備システムの高効率化に配慮した。
LR2 資源・マテリアル	LGS工法により躯体と仕上材の分別容易性を考慮。
LR3 敷地外環境	適切な量の駐車スペースを確保するなど交通負荷の抑制に心掛けた。
その他	